

## 『新たに立ち上がる』(使徒の働き 9章 19-31節) 2023.10.22.

<はじめに> これまでの歩みの中で、「あれが私の一大転機だった」という経験があるでしょうか。どうして、今までの自分から新しい自分へと変わったのでしょうか。サウロが経験した回心も正しくそのようなものでした。サウロの何が今までとは全く変わったのでしょうか。

### I 変貌した迫害者サウロ(19-26)

#### ①変貌に戸惑う周囲

イエスの名に対して徹底して反対して、聖徒たちを迫害していたサウロ(26:9-11)が、バプテスマを受けると(18)、直ちに諸会堂で「この方こそ神の子です」と宣べ伝え始めます。これを聞いたユダヤ人はうるたえて彼の殺害を謀り、主の弟子たちは彼を恐れ疑います。

#### ②サウロに何があったのか

天からの光と声に触れ、目が見えず飲食もできない3日間(9)で、彼の理解は一転します。

a)自分が敵対していたイエスは生ける神・主で、b)イエスと聖徒たちは一体(エペソ 1:23)、c)イエスこそ神が遣わしたキリスト(救い主)で、d)イエスを信じるだけで罪は赦される、と。

#### ③目から鱗(18、I コリント 3:14-18)

新しいイエス理解は、サウロにとって正しく目から鱗でした。今も心に覆いが掛かっている者も、その人が主に立ち返るなら、心の覆いはキリストによって取り除かれます。その人は主の栄光を反映して、主と同じ姿へと変えられていきます。これは御霊なる主の働きです。

### II 新たに立ち上がるサウロ

#### ①整理と黙想の時(19-22、ガラテヤ 1:17)

心と理解が一変すると、その生き方も変貌します。目が開かれたサウロは「直ちに…宣べ伝え始めた」(20)とありますが、ガラテヤ 1:17で「すぐにアラビアに出て行き」と彼は述べています。発見した真理を整理し、従前の理解を改め、どう生きるべきかを探る期間でした。

#### ②陰謀と協力の中で(23-30)

かつての理解と行動への深い反省が、赦され生かされている感謝とともに、サウロを新しい使命に駆り立てます。かつての仲間であったユダヤ人たちは、裏切者サウロを闇に葬ろうと謀り、付け狙います。しかし、彼を理解し協力する者も与えられて、窮地を脱します。

#### ③こうして教会は(31)

6:7に続く教会進展報告です。迫害者サウロの回心は主の御業です。この知らせに、各地の教会と聖徒たちは主を恐れつつ平安を得ます。そして聖霊に励まされて、いよいよイエスの福音を証し、信者が増える要因となりました。

### III イムマヌエル綜合伝道団の始まり

#### ①獄中でのヴィジョンから

この教団は1945年設立です。創設者・蔦田二雄師はそれ以前から牧師職にあり、目覚ましく主の働きを繰り広げていました。しかし太平洋戦争中のキリスト教弾圧により約2年間投獄され、その中で主からヴィジョンを受け取り、釈放後の働きを思い巡らしていました。

#### ②深い反省と決意に基いて

この弾圧・迫害は時代と社会が教会に与えた暴挙です。同時にこの苦難には神が教会に反省を促す意味合いがあると蔦田師は受け取ります。教会が罪の赦しときよめを説くにふさわしく真の聖化と一致に導き、二度と繰り返さない決意をもって、再起を待ち望みます。

#### ③私たちの生きる道

獄中でのヴィジョンと反省に基づき、終戦後、蔦田師は従来教会・活動に復帰・再開するのではなく、無からの新出発に踏み出します。聖書が示す神とともに歩む歩みを各個人が真摯に取り組み、熱く祈り、果敢に福音宣教に励むことこそ、この群れの生きる道です。

<おわりに> サウロの目を開かれて新しく造り変えられたのも、蔦田師を獄中に導き、深い熟慮反省を通してこの群れを興されたのも、主です。その主が私たちに今何を語り示されているでしょう。主は私をも新しく造り変えようと、今も関わり働いておられます。(H.M.)